

2020 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	和歌山県情報化推進協議会
活動テーマ	臨時災害放送局開設訓練を通じた災害時の地域情報共有基盤の形成

海南市下津町での FM 放送設備設置
(近畿総合通信局)



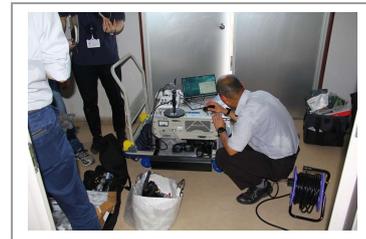
海南市下津町大崎の避難所での
ラジオ可聴域調査



みなべ町中央公民館での FM 放送開設訓練
アンテナの設置



みなべ町中央公民館での FM 放送開設訓練
機材の設定



災害発生後、緊急事態を脱した後の数週間に地域内で生き延びるための情報共有基盤を作ることが重要な課題である。このためのメディアが臨時災害放送局である。臨時災害放送局をできるだけ早期に開設するためには、事前に準備しておくことが重要である。今年度は事前準備として、県内のいくつかの市町村において、臨時災害放送局を設置するための適地を探し、実際にそこから電波を発出して地域内でどれくらいラジオを聴取可能かどうか、近畿総合通信局と協同で可聴域調査を行った。

もう一つの重要な準備は、地域内で円滑な情報収集を行い、それをラジオで放送するため、地域内の高校生、新聞社、コミュニティ放送、AM ラジオ局等と協力し、情報ボランティアを育成することである。過去 2 年間、4 市町で臨時災害放送局開設訓練を行ってきたが、今年度は和歌山県みなべ町で実施すべく、準備を進めた。みなべ町、南部高校、紀伊民報、和歌山放送、FM たなべと連携し実施期日も定めて準備をしたが、全国に蔓延した新型コロナ Virus のため、出張や活動は自粛せざるを得ず中止とした。

コロナ Virus のような感染症が、災害発生時にもより大きな支障を来すことは言を俟たない。避難所のように大勢の人が集まる場所では感染症の拡大は防ぐことができないであろう。それを避けるためには、3密を避けた自宅等での分散避難が推奨される。それらの人々に適時、適切に情報を伝達し、行動変容を引き起こすのは、被害を減少させるため、必須の活動である。

発災時、より迅速に円滑な活動ができるよう、放送に関わる人、組織等で平時から情報交換、訓練を行うことは重要である。今後は Online ツールを活用しながら、この課題に取り組むことにしている。